レーザーコンパス

産業の空洞化を憂う

山中千代衛*

Chiyoe YAMANAKA*

わが国は未曽有の危機に直面している。その深刻さが人々に正しく認識されていないため明治維新や太平洋戦争敗戦時とは一味ちがう危険性を備えている。冷戦構造が解消し，世界経済は解放体制となり，市場原理により運営されている。お金は国境を越えて自由に動きまわり，まさにボーダレス現象が出現している。しかるにわが国のインフラストラクチャーは旧態依然の規制構造にとどまり，11年前のプラザ合意の下，戦略なき経済運営に走り，戦後営々として築き上げてきた経済パワーを一挙に喪失しつつある。バブル経済への誘導とその崩壊の過程は50年前の開戦から敗戦への経過ときわめて酷似しており，日本人のアカウンタビリティーが問われている。まさに責任不在の日本である。

円高の定着と内需拡大の失敗もあり，生産拠点の海外シフトが進行し，産業の空洞化が顕在化しつつある。これは雇用の減少，生産技術の喪失につながる心配がある。バブル崩壊後，世界最高水準の賃金と地価上昇の後遺症による増大コストの圧力を受け，一方ではアメリカ経済の活力回復やアジアの発展途上国の躍進という背景のなかでわが国の頼りとする製造業は存亡の危機に追い込まれる虞がある。

さらに困ったことに研究開発の海外シフトが企業において積極的に模索されている。戦後復興の過程で根元となる技術を先進諸国からの導入技術に頼り，その改良と生産への適用に能力を発揮し，今日の繁栄を築いた経験は今だに清算されていない。元来研究開発はそれがイノベイティブであればある程，その成功率は低いもので，高い開発対価を払ってはじめてオリジナルな新技術が生まれるのだ。実際今までのキャッチアップの時代でも，新しい分野で欧米と対等に競争した領域ではすばらしい成果が上がっている。後追い技術に執心した分野では見るべき成績が収められなかった。このような過去のケースから教訓を引き出し活路を見い出さなければならない。

わが国にとって最悪のシナリオは産業の空洞化がひろがり，研究開発の海外シフトがすすみ，技術革新力が低下し，その結果日本からの「デ・ファクト・スタンダード」が発信出来なくなり，企業は次第に衰弱し，研究開発への再投資が圧殺され，この悪循環の下で，わが国が次第に「過去の国」になるという筋書である。

産業構造は時代とともに変化してゆく。発展途上国に技術を移転し，その発展を支援することは世界経済の進歩に望ましい成果を与える。

しかし一方でブーメラン効果をうける分野も生じる。欧米のように過去の繁栄による重厚な蓄積資本がある社会は現在でも産業変動に対する耐力があり，人々の生活水準は高く保持されている。残念ながらわが国では工業発展の成果としての社会資本の蓄積に乏しく，経済運営の失敗からバブル崩壊により大きな傷跡をかかえている。楽天的にこのままでも何とかなると現状をとらえてはならない。

言うまでもなく，資源に乏しいわが国においては富の生産にかかわる製造業の再生復活に最

*(財) レーザー技術総合研究所（〒565　吹田市山田丘2-6）
* Institute for Laser Technology (2-6 Yamada-oka Suita 565)

2005 Digital Archive; copyright The Laser Society of Japan

大の努力を投入しなければならないであろう。サービス産業などの第三次産業で1億2千万の人口を養うことは不可能である。そこで必要なことは第一に規制を撤廃し競争の原理を導入し人的活力の回復をはかる。第二は人材の育成である。大学の再編をすすめイノベイティブな個性を育て国際競争力を養成せねばならない。第三は科学技術の発展を計ることである。幸い科学技術基本法も成立をみたことであり，新しい産業の展開が期待できる科学技術の芽を創成することが最大のテーマとなる。レーザーなど先端科学技術の発展にもっと積極的な振興策を講じなければ21世紀の日本の進路は危ういと言わざるを得ないのである。

2005 Digital Archive; copyright The Laser Society of Japan